



“NPO法人 水と緑の似あう “環境まちづくり”をめざして さやま環境市民ネットワーク”誕生

代表理事 石田 嵩

7月31日付で埼玉県からNPO法人の認証を受け、8月14日に法務局への法人登記が完了しました。これで“特定非営利活動法人さやま環境市民ネットワーク”(NPOさや環)が正式に発足した事になります。会員数は、正会員が66名、賛助会員が100名です。

法人化により、任意団体としてこれまで取り組んできた活動内容が大きく変わるわけではありませんが、法人格をもつことでこれまで以上に活動の公正性や透明性が求められます。また、法人としての主体性及び自立性を高めていくことが必要となります。さしあたって、これまで環境政策課に依存してきた事務局機能を独自に備える必要があることから、当面は事務局を代表理事の社内(実務は事務局長が担当)に持つことにしています。

また、行政からの運営補助がなくなる点につ

いては、会員の拡大、行政からの事業委託の機会拡大や民間助成団体からの助成金の獲得、団体や事業所からの寄付金や協賛金の獲得などにより、事業基盤の強化に積極的に取り組んでいきたいと考えています。

前途多難な船出となりますが、NPO法人化を契機に、NPOさや環が環境まちづくりの担い手として大きく飛躍するため、行政をはじめ、各種団体、事業所、市民のみなさんにご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

最後に、これまで任意団体としてのさや環を支えていただいた皆様には厚く御礼申し上げますとともに、これまで同様のご支援をよろしくお願ひ申し上げます次第です。



水富(相模)

お知らせ

NPO法人さやま環境市民ネットワークの正式発足を機に、当会報は、過去の発行分を含め、ホームページでも閲覧できるようになりました。また、会報の名前を「リポート」から「さやまか」に改めました。この名前は「さやまか」および通称名「さや環」からイメージし、多くの市民に愛されることを願って命名したものです。

「リポート」は、3ヶ月に一度自治会回覧をさせて頂いておりましたが、ホームページで閲覧でき

るようになった事から、自治会回覧を停止することになりました。今まで回覧でご愛読下さった皆様には心から御礼を申し上げますとともに、今後は下記にご案内のホームページで、NPOさや環に関する種々の情報をご高覧下さるようお願いいたします。

●ホームページアドレス

<http://sayama-kankyo.org>

なお、電話、メール、Fax等でのお問い合わせは、最終ページ末尾のNPO法人さやま環境市民ネットワーク事務局までご連絡下さい。



環境くん

石川しげみさ

各分科会の活動報告

緑の分科会

環境講座「コミュニティガーデンで街の再生を！」

8月25日、さやま環境市民ネットワークと広瀬公民館の共催で、環境講座が行われました。

テーマは「コミュニティガーデン(地域の庭)で街がどう変わるか」。

講師は、NPOグリーンオフィスさやま代表理事 毛塚 宏氏です。

地域の庭——新しい住民活動として、空き地や共有地、未活用地の民有地や公園内などを活用してのコミュニティづくりを目指したもので、住民が主体となって学校や企業と連携をとりながら進めるところに特徴があります。

当日は、狭山市の防災訓練や上広瀬地域で夏祭りが行われた事もあり、近隣の方々の参加が少なかったのは残念でしたが、猛暑のなか講師の毛塚氏はじめ、受講された24名の皆様にはご足労を感謝いたします。

講座は、「アメリカで発祥したコミュニティガ



熱心に講義を聞き、意見交換では貴重な発言も出る

ーデン」の歴史にはじまり、先進地域での活動の事例、市民が主体的・自立的に進めるにはどのように活動して

いくのか等、具体的で分かりやすい内容でした。

狭山市内の事例としては新狭山1丁目、東急入間川、新狭山ハイツでの取り組み等が紹介されました。

また講座の後には、講師と参加者との意見交換があり、貴重な発言も多く出されました。広瀬台在住の大学生をはじめ、さやま環ネットの会員以外の受講者も多く、有意義な講座だったと思います。

上広瀬の地域には区画整理による公園予定地が点在しており、「地域の庭」コミュニティづくりのために、この公園予定地を大いに活用していきたいと思います。(大阿久芳胤)

川分科会

“多自然川づくり”をベースにした「入間川親水スペースづくり」

狭山市環境基本計画が市民によって平成15年に作られましたが、その中の重要プロジェクトの一つとして「よみがえれ、ふるさとの川」があります。「水辺を探検し、川のことを知ろう」「水辺の自然を再生させよう」「水源の森を守ろう」そして「まず行動することが大切です」と結んでいます。

川分科会としては、これまで定例会に於ける勉強会、環境講座の開催、源流の団体との交流、学校や地域団体への環境学習支援など、いろいろ活動してきましたが、具体的な再生計画(多自然の川辺づくり、魚道や堰の整備など)を実行するには、問題と内容が大きすぎ、むなししい思いでいました。

しかし、平成18年10月に国土交通省より「多自然川づくり指針」と「河川景観ガイドライン」が相次いで公表され、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史、文化との調和にも配慮し、多様な河川景観を保全、創出することが明確化されたのです。その事によって、我々は少し勇気づけられ、とりあえず小さな事からでもスタートしようという事になりました。



多自然川辺づくりを目指す入間川の景観

まず、県が設けた「水辺の里親制度」に申し込み、7月29日に県土整備事務所・狭山市と協定を結び、活動の許可を得ました。それらは主に河川環境に対する美化活動及び啓蒙活動です。これらの活動に対して、行政から用具類、保険その他の支援が得られます。

しかし、残念な事に活動予定が2度も台風で中止になりました。計画の場所は新富士見橋下(国道16号側)を本拠地として、下流に進める予定です。現状は手つかずの環境です。我々市民が本当に懸念する多自然川辺づくりとして、漁協の皆さんや植生、鳥類等の専門家、そして、まちづくりの団体の皆さんとともに活動していく予定です。また、これからのことですが、狭山市駅西口より川辺につながるトンネル(16号下)等の夢も見ています。

狭山市の中央に大きな川があるということは、大変な幸運だと思いますが、この入間川の環境がもっともっと豊になり、市民の心のふるさととして未来につながるようお願いいたします。

(鈴木英有)

エコドライブを勉強しよう

ハイブリッド車の実用化や、燃費が大幅に改善された車の出現で、車1台当りの燃料使用量は減少の方向ですが、日常的に使用される台数の増加、加えて大型化の潮流により、燃料の絶対的使用量は増加の一途をたどっています。

エコドライブとは、環境にやさしく、かつ経済効果の期待できる車の運行を、「運転の仕方」という観点から見直すことにより、化石燃料の消費、並びに二酸化炭素の排出を抑えることをねらいとした運転のことです。

ほとんどの人が自分はエコドライブを実践していると思っていることでしょうか。しかし、改善の余地はきっとあります。①発進の仕方 ②発進後の加速の仕方 ③減速の仕方 ④停車の仕方を工夫することによって20%以上の燃費を改善できたという省エネセンターの実績データがあ



エコドライブの要点を学ぶ

ります。私は、6月30日に省エネセンターが実施したエコドライブ普及員養成研修会に参加しました。そして運転の仕方を見直した結果、目に見えて燃費が向上し、給油の間隔が延びたことを実感することができています。普及員は、県内各地でエコドライブの普及に取り組むことになっています。狭山市では、私が講師で下記の通り「エコドライブ講習会」を実施します。奮ってご参加下さいませよう、お願いいたします。



エコドライブの運転実習

- ・日時：平成19年12月2日(日) 午後1時30分から
- ・場所：中央公民館
- ・講師：本橋亮一（エコドライブ普及員）
- ・共催：NPOさや環 温暖化対策分科会、狭山市、中央公民館

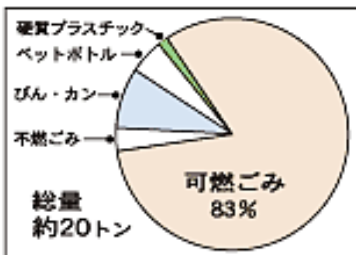
(本橋亮一)

入間川七夕まつりのごみ対策

今年も入間川七夕には市内外から大勢の人が訪れて賑やかでした。気持ちよい七夕になるよう、私たちは「市民ごみボランティア」として毎年参加しています。

今年の「七夕まつりのごみ」はどうだったでしょうか。通りに落ちていた散乱ごみは、まったくと言ってよいほど無く、所要所にゴミ分別のかご「びん・カン、ペットボトル、可燃ごみ」それに、今年から“かき氷の容器”が置かれ、訪れた客の大方は、どのかごに入れるか選びながら置いていました。

10年以上前、市民有志がごみ対策を始めた頃は、ごみが散乱し、歩道のあちこちにうずたかくごみの山があり、見るも無残なありさまでした。毎年毎年、市は市民と一緒に対策を考え、各層からのボランティアも増え、見違えるほど「きれいな七夕まつり」になりました。



七夕まつりのごみ

改善すべき問題

今年集められたごみは、総量約20トン、そのうち資源は12.5% (約2.5トン)、プラスチックが大量に混ざった可燃ごみが83%。狭山市ではプラスチックは資源として集めているにもかかわらず、集められたのは硬質プラスチックだけで、かき氷の容器などもみな燃やされてしまいました。また、七夕飾りに使用した竹は、以前は「竹炭、学校の工作用など」に利用されていたのが、最近はずべて燃やされているとのこと。

ごみ処理は全て業者に一括して委託し、処理方法などにあまり留意されていないのが現状のように思います。今後は、もっと環境に留意した「入間川七夕まつり」にしたいものです。

(吉村七郎)



★ 狭山台から狭山市駅まで毎朝「がんばるぞ〜」と息をあげて坂を登り、「今日もおつかれさま」と心を穏やかに坂を下る習慣。まちの背後には、大きく包み込むようにある平地林がいつも見守ってくれていて、なんともいえない安心感。狭山の河岸段丘の大地は見えないようで、実はこっそりと豊かな贈り物をくれているんだなって感じています。先日、そんな贈り物の一つ、水野の森の管理作業にご一緒させていただきました。作業後の木々の間から光がさし込んできたときの喜びといたら、なんとも不思議な感覚。「木の葉風なきに落ちてかすかな音をし、それも止んだ時、自然の静粛を感じ、永遠の呼吸身に迫るを覚ゆるであろう」小説「武蔵野」の中のように林の奥に座してみたくまりました。

そして、貴重な生き物達はもちろんのこと、作業をする若葉台の人たちの思いのパワーがまた、この森に欠かせない財産のようでした。これから狭山の秋が楽しみです。

(岩田美姫)



厳しい環境基準に即応し、地域を守る

市内鶴の木で主に土木建築業を営む吉松建設工業社長の吉松孝吉さん、常務の賢司さん親子を訪ねたのは猛暑真っ只中の8月8日。業務の合間の貴重な時間を頂戴し、お話を伺いました。

まず、「建設業」と聞けば“ガテンの世界”。しかも、業界全体が厳しい経済情勢が続くなか、環境問題へ関心はどのようなだろう？というのが正直な気持ちでした。ところが、建設業界の環境への取り組みは、世間一般の先駆けであり、厳しい環境基準が課せられていることがわかりました。「建設機械など環境規制は、じつは乗用車よりもずっと以前に行なわれたんですよ」。工事現場で出る大量の廃棄物の分別徹底、コンクリート・アスファルト・金属類・木材等の建築資材、および工事現場備品のリサイクルなど、さまざまな分野で環境負荷の低減をしてきたそうです。



吉松常務(左) 吉松社長(右)

「現場の照明や保安灯・標識板などの電球・蛍光灯をLED(発光ダイオード)に換えました。コストは60倍も掛かりましたが、エネルギーは1/200」。その他、建設機械は、操作技術の工夫や作業の改善等により、この7年間で燃費を約2割削減。また、資材梱包の簡素化や、現場ごとに行なっていた発注・納入を自社一括にして輸送ロスをなくすなど、環境のための取り組みは大小、数限りがありません。

さて、こうした情熱はどこからくるのでしょうか？「勤務先で阪神淡路大震災に遭い、その時復興に携わった者として、私達が暮らす環境や地域がより良くあってほしいからです」。

大雨や大雪の後、近所に雨水や雪で通行困難になった道路があると、すぐさま復旧に向かうそうです。「二次被害が心配ですから」。会社の業務ではなく、土木のプロとして賢司さんが自らに課すボランティアの1つです。

(編集委員 山口)

イベント情報

さやま環境ウォーク2007 “奥富田園地帯と入間川を歩く”(約6km)

- 日時: 11月23日(金) 祝日 午前10時開会～午後2時閉会 (小雨決行)
- 受付: 午前9時30分～
- 主催: NPO法人さやま環境市民ネットワーク
- 集合場所: 中原公園(新狭山駅北口) / 解散場所: 中央公民館(狭山市駅西口)
- 参加費: 大人¥300、小・中学生¥100(保険、資料代含む)
- 持ち物: 弁当、飲み物、雨具(歩きやすい服装)
- 申込み・問合せ先: 電話/Fax. 2956-7071 小川泰男 / 携帯090-3962-3840 毛塚 宏

第20回 赤坂の森クリーン活動

今年も赤坂の森クリーン活動を行ないます。皆さんのご協力をお願いします。

- 日時: 11月11日(日) 午前9時～11時 (小雨決行)
- 集合: 第一会場(赤坂の森運動公園事務所前)、第二会場(くぬぎ山の狭山研磨材前)
- 作業のしやすい服装、軍手は各自持参下さい。
- 問合せ先: 携帯 090-3962-3840 赤坂の森クリーン活動実行委員会事務局 毛塚 宏

環境講座「財布に優しい楽して省エネ」

- 日時: 平成19年11月21日(水) 午後2時～4時 予定
- 受付: 午後1時30分
- 場所: 中央公民館
- 講師: 大庭みゆき先生 (株)環境エネルギー総合研究所長
- 共催: 狭山市、狭山市消費者団体連絡会、NPOさやま 温暖化対策分科会、中央公民館
- 問合せ先: 電話/Fax. 04-2954-3488 土淵 昭 (温暖化対策分科会リーダー)



平成18年度に「狭山市みどりの基金」に寄せられた寄付・募金の合計は、¥3,467,079
平成19年度には、9月18日現在 ¥357,037の寄付金が集まっております。
どうもありがとうございました。

会員募集

皆さまのご入会を
お待ちしております。

市内在住・在学・在勤の個人、市内で活動されている
民間団体や事業者であれば入会する事が出来ます。

NPO法人さやま環境市民ネットワーク事務局

事務局長=伊藤勝彦 Tel./Fax.04-2956-6357 携帯090-4535-2394
●E-メール=o-surd@planner.so-net.ne.jp
●ホームページ=http://sayama-kankyo.org

会員数=平成19年6月13日現在(総数166会員)個人 134名 / 団体 24団体 / 事業者 8事業者